

平成 21 年度の事業計画

1 ニホンジカのモニタリング調査

- ・糞塊密度法により、県内 8 2 コースを調査し、個体数の増減を推定。

(剣山地区については、4 コース調査)

予算額 1, 2 5 0 千円 (委託事業)

2 剣山山系におけるニホンジカ個体数調整業務 (ふるさと雇用再生特別基金事業)

- ・三好市見ノ越に囲いわなを 2 基設置し、ニホンジカを捕獲する。

また、捕獲したニホンジカのデータ整理を行い、捕獲技術普及のための資料を作成する。

予算額 4, 5 3 6 千円 (委託事業)

3 防鹿柵の管理、効果調査 (剣山地域ニホンジカ等被害対策連絡会)

- ・自然環境整備交付金及び協議会で設置した防鹿柵の網部分の引き上げ、引き下げ作業及び補修作業。

- ・植生調査 (防鹿柵設置時に設けられた調査区 1 4 箇所)

※平成 1 9 年度に環境省の自然環境整備交付金により、シカ防護ネットを設置し、希少種の保護に取り組んでいる。

(事業費：1, 0 0 0 万円、事業量：防護柵 2 3 セット)

4 徳島大学の研究事業 (剣山など高標高域におけるニホンジカ行動特性の解明)

- ・剣山地域においてニホンジカを捕獲し、GPS を装着した上で放逐する。1 年程度経過した後に GPS を回収し、高標高域における環境選択、季節移動様式など行動特性を把握する。

平成21年度事業計画位置図



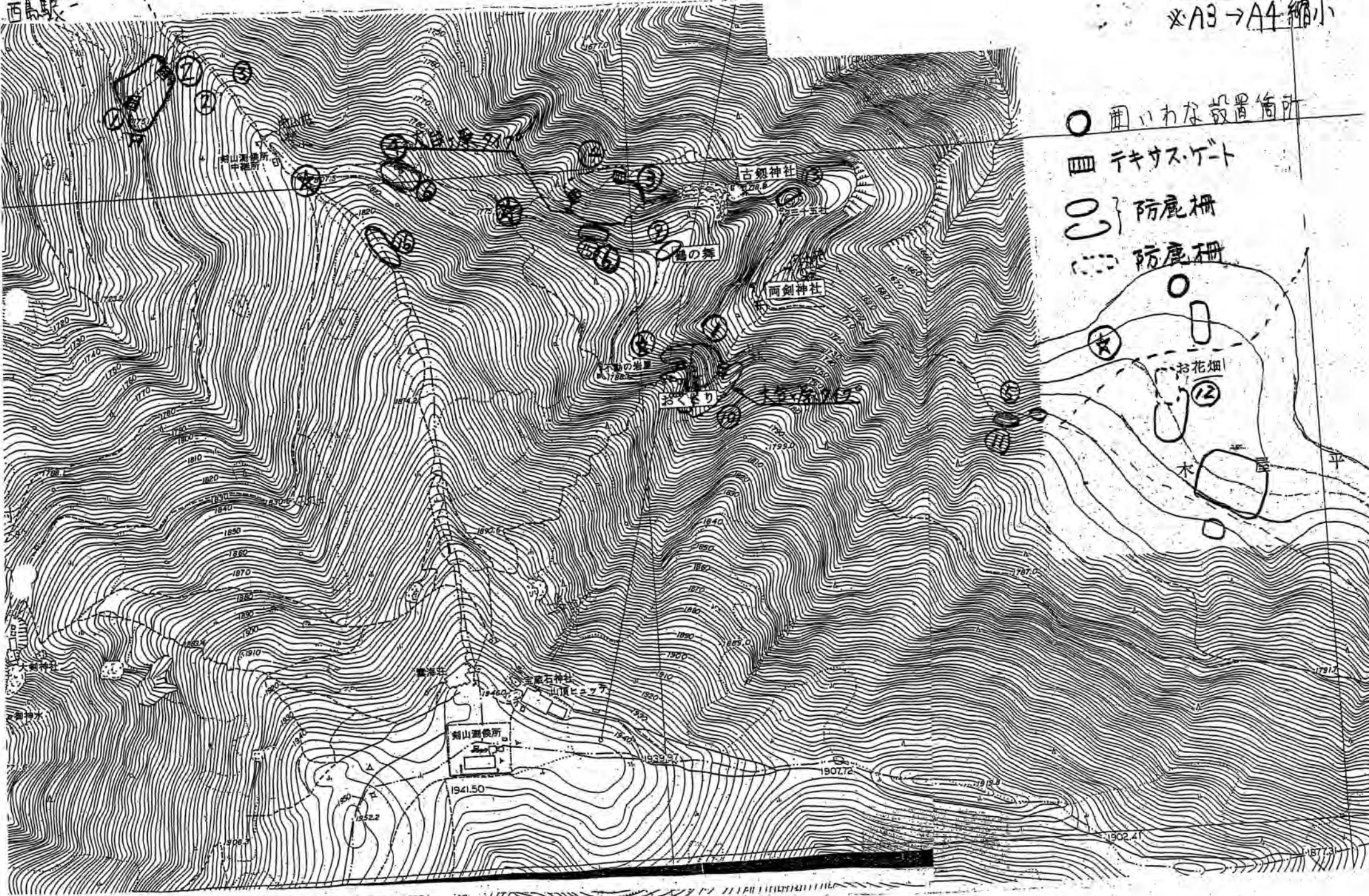
S = 1 : 50,000

(徳島県環境総局自然環境課)

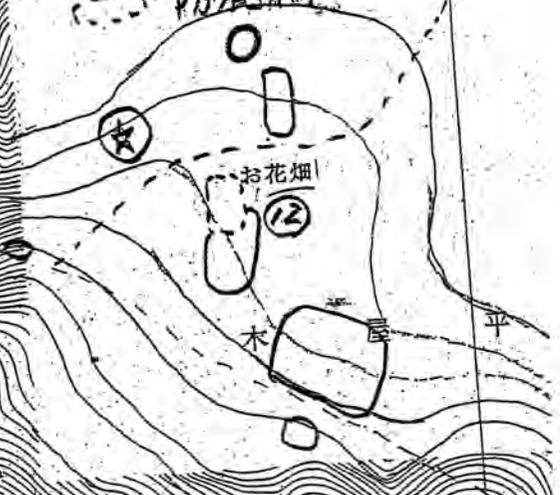
位置図 (S=1:2,500)

※A3 → A4 縮小

西島駅



- 囲いかな設置箇所
- テキサスシート
- 〇 } 防鹿柵
- ⋯ } 防鹿柵



H20 予算

H21 当初

◎ シカ被害特別対策事業 【 97,382千円 → 103,643千円 】

県の西南地域と東部地域を中心にシカによる農林業被害及び自然植生被害が深刻な事態に立ち至っている。このため、狩猟期における捕獲報償金の制度化、三嶺・黒尊など山岳地での捕獲、シカ肉利用促進など、総合的なシカ被害対策に取り組む。

事業メニュー		事業の内容	事業実施主体	予算額
①シカ個体数調整事業		☆捕獲報償金 シカの有害鳥獣捕獲にかかる報償金支出経費への助成 補助率：1/2	市町村	28,500千円
		☆捕獲檻 シカ用捕獲檻、 <u>囲いわな</u> の購入経費への助成 補助率：1/2	市町村	
②シカ個体数調整事業	I 狩猟期のシカ捕獲対策	☆シカの個体数を効果的に削減するためには、メスジカを選択的に捕獲する必要がある。このため、多くの狩猟者が狩猟を行う狩猟期において、メスジカとオスジカに差を付けて捕獲報償金を支出することとし、短期・集中的にシカの個体数調整を行う。 ・捕獲報償金 ・市町村に委託	県	68,837千円
	II 山岳地のシカ捕獲対策	☆三嶺、黒尊などシカによる自然植生への食害が激しい地域においては、緊急にシカの個体数調整が必要であることから、こうした地域を特定してシカの個体数調整事業(捕獲)を実施する。	県	3,558千円
③シカ肉利用促進事業		☆シカ肉事業化支援事業費補助金 簡易な設備整備、組織づくりなど事業実施体制づくり、商品開発など事業化に要する経費への助成。 補助率：定額(500千円を上限とする。)	民間団体、農協婦人部、生活改善グループなど	1,000千円
		☆シカ肉販路拡大事業 イベント支援、関係者の検討組織づくり、ポスター作成、先進地調査など	県	748千円
④ニホンジカ生息数モニタリング事業		☆ニホンジカの増殖率を推計するうえで基礎データとなるニホンジカ個体群の年齢構成を調査する。	県	1,000千円

高標高域のシカ被害に対する主な取り組み

高知県文化生活部 鳥獣対策課

I 平成20年度実施事業

1 自然植生保護対策シカ個体数調整事業

○ 目的

三嶺、黒尊などシカによる自然植生への食害が激しい山岳地域においては、緊急の対応が必要であることから、これらの山岳地の鳥獣保護区を中心に個体数調整事業を実施し被害を軽減する。

● 事業内容（実績）

三嶺：H20年12月～3月 捕獲事業を6回実施。（銃器による。）
捕獲頭数 35頭（メス31頭、オス4頭）

黒尊：H20年12月～3月 捕獲事業（くくりわな）を実施。
捕獲頭数 26頭（メス13頭、オス12頭、不明1頭）

いずれも県猟友会への委託事業として実施した。

○ 予算額 8,158千円

2 山岳地におけるシカ捕獲促進事業（囲いわな試験設置）

○ 目的

通常、狩猟者が立ち入らない高標高域でシカを捕獲する新たな方法として、囲いわなによる捕獲を行い、シカの個体数調整を図る。また、この取組を通じて、囲いわなによる技術の確立と普及を図る。

● 事業内容（実績）

三嶺山系（白髪山）：12月～3月 0頭

本山町（白髪山）：11月～3月 0頭

四万十市黒尊山（麓）：11月～3月 15頭（メス13頭、オス2頭）

○ 予算額 3,700千円

3 その他のおもなシカ被害防止対策

(1) シカ個体数調整事業

○ 目的

県内全域で、シカの個体数調整に集中的に取り組む。

○ 事業内容

狩猟期におけるシカ捕獲に対し報償金を支払う。

メスジカ 10,000円 オスジカ 5,000円

● 捕獲頭数（実績）

4,956頭

〔	対前年約1.7倍	目標8,700頭の57%	〕
	内訳：メス2,401頭(48.4%)	オス2,555頭(51.6%)	

○ 予算額 69,329千円

(2) シカ被害対策特別事業費補助金

○ 目的

シカによる農林業被害を防止するため、市町村が行う有害鳥獣捕獲事業（シカのみ）に対し助成する。

○ 事業内容

補助対象：シカ捕獲報償金、捕獲檻購入経費

補助率：1/2 H20から鳥獣被害緊急対策事業費補助金から分離し別立ての補助金とした。 1/3 → 1/2

- 捕獲頭数（実績）
3,363 頭（対前年約 1.8 倍）
- 予算額 14,000 千円

II 平成21年度事業計画

1 自然植生保護対策シカ個体数調整事業

- 事業内容
三嶺：囲いわなによるシカ捕獲（試験運用）
黒尊：くくりわなによる捕獲
- 予算額 3,558 千円

2 その他の主なシカ被害防止対策

(1) シカ個体数調整事業

- 事業内容
前年度と同様
- 予算額 68,837 千円

(2) シカ被害特別対策事業費補助金

- 事業内容
前年度と同様
- 予算額 28,500 千円

(3) ニホンジカ生息数モニタリング事業

- 目的
シカの増殖率を推計するうえで基礎データとなる齢構成を把握する。
- 事業内容
県内で捕獲されるシカの歯を採取し、シカの齢構成を調査する。
- 予算額 1,000 千円（新規）